



『学生の年金に対する 理解度を高める教育・ 広報の在り方』

埼玉大学 大津ゼミ
大野 川波 木口 瀧澤 三浦



背景 少子高齢化と制度課題

少子高齢化の進行

制度の持続可能性への懸念

世代間公平性の課題



背景

若年層の理解不足

複雑でわかりにくい

自分にはまだ関係ない

不安・不信感の広がり

2.制度の概要

年金制度の仕組み

公的年金制度は原則2階建て構造
(私的年金を含む場合3階建て構造)

すべての国民が加入する国民年金(基礎年金)と
会社員や公務員が加入する厚生年金(報酬比例
部分)から成り立つ。

現役世代が高齢世代を支える賦課方式を採用

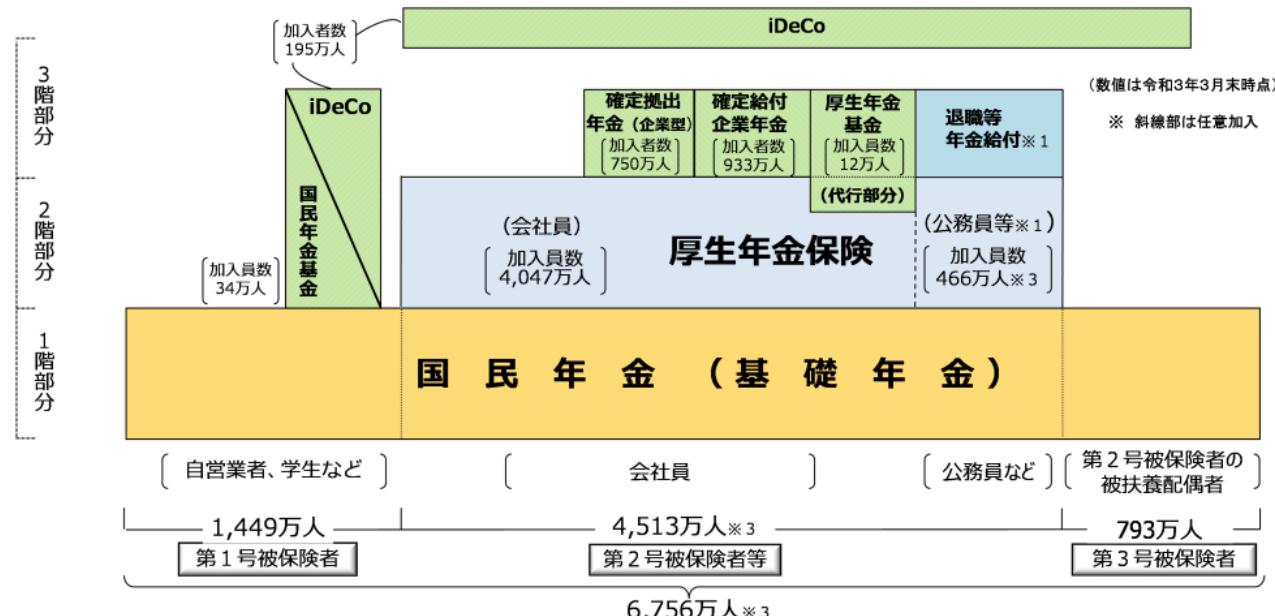
しかし



少子高齢化の進行と非正規雇用の増加により、
制度の持続可能性と公平性に懸念が高まってい
る。

年金制度の仕組み

- 現役世代は**全て国民年金の被保険者**となり、高齢期となれば、**基礎年金**の給付を受ける。（1階部分）
- 民間サラリーマンや公務員等は、これに加え、**厚生年金保険**に加入し、基礎年金の上乗せとして**報酬比例年金**の給付を受ける。（2階部分）
- また、希望する者は、iDeCo（個人型確定拠出年金）等の**私的年金**に任意で加入し、さらに上乗せの給付を受けることができる。（3階部分）



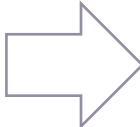
※1 被用者年金制度の一元化に伴い、平成27年10月1日から公務員および私学教職員も厚生年金に加入。また、共済年金の職域加算部分は廃止され、新たに退職等年金給付が創設。ただし、平成27年9月30日までの共済年金に加入していた期間分については、平成27年10月以後においても、加入期間に応じた職域加算部分を支給。

※2 第2号被保険者等とは、厚生年金被保険者のことをいう（第2号被保険者のほか、65歳以上で老齢、または、退職を支給事由とする年金給付の受給権を有する者を含む）。

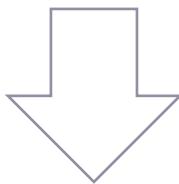
※3 公務員等、第2号被保険者等及び公的年金全体の数は速報値である。

2.制度の概要

2024年の財政検証では、出生率の低下や労働参加率の変化を踏まえた将来の推計が示された。



制度の安定性を維持するために一定の制度改革が不可欠であるという見解



こうした背景のもと、学校教育や広報活動における、制度の意義や仕組みをわかりやすく伝える工夫がまとめられている。

特に若者の生活実感に即した情報提供や、制度の信頼性を高める対話的な広報の必要性が指摘されている。

3.研究目的と方法

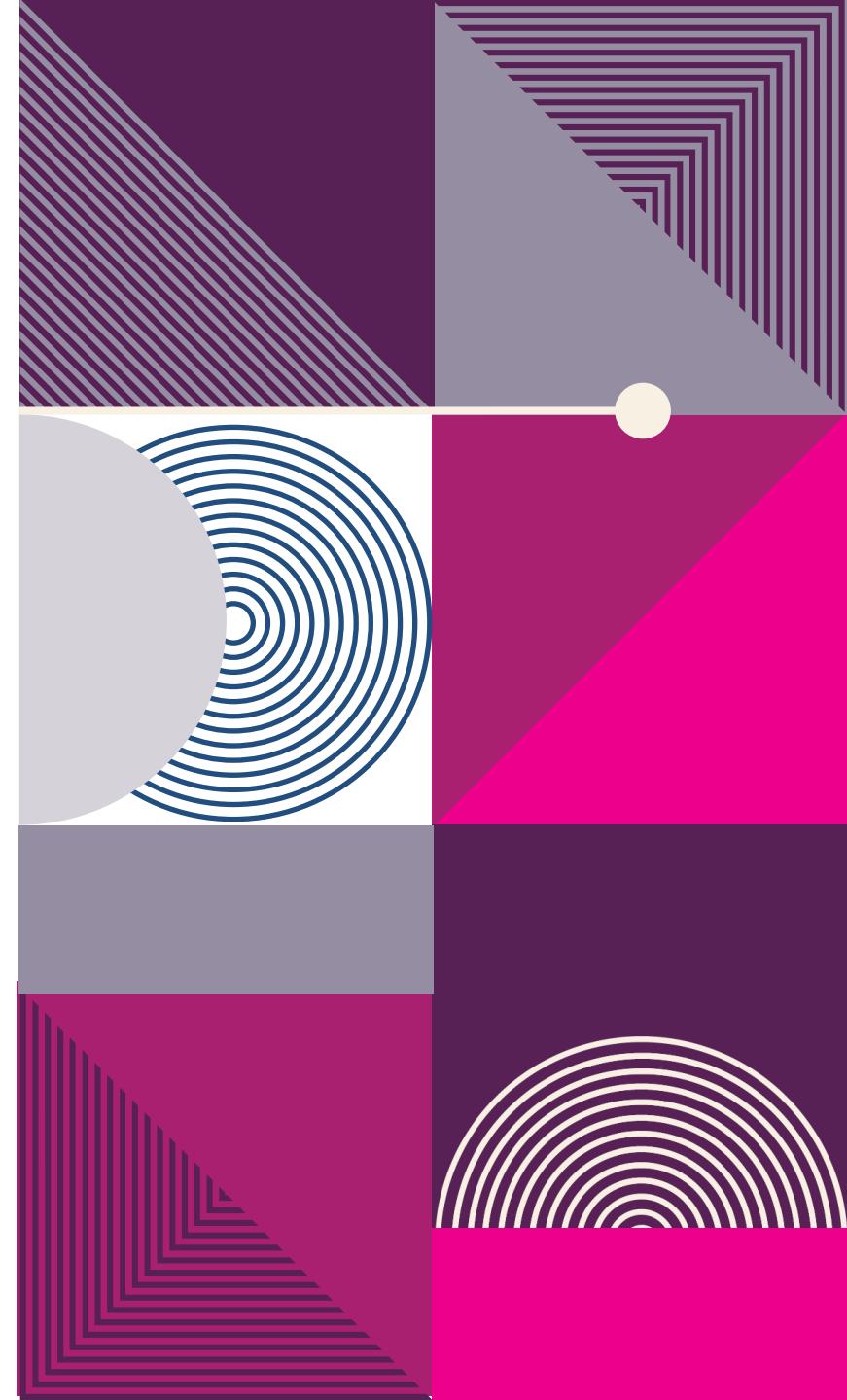
研究目的

若年層の年金制度に対する理解度の事態を把握し、教育・広報のあり方について検討する

特に、制度の「伝え手」である年金委員の視点を取り入れ、現場の情報伝達の課題と可能性を明らかにし、若者に届く制度広報の方策を提言

研究方法

- 1.大学生へのアンケート調査
- 2.年金委員へのインタビュー調査



3.研究目的と方法

1.大学生へのアンケート調査

調査方法:Googleフォーム

調査対象:埼玉大学学生 173名

回答方式は選択式と自由記述
計10問

2.年金委員へのインタビュー調査

インタビュー対象:埼玉県の年金委員

インタビュー内容:若年層との接点や広報活動の実態、制度理解
に関する課題認識

調査内容

- ・年金制度に関する知識
- ・関心度
- ・将来への不安
- ・情報源



研究内容

- 若年層の理解度・関心の実態把握
- 年金委員の視点を取り入れた教育・広報の検討



研究方法① 祖父母・父母世代への 聞き取り調査

対象：ゼミ生の父母・祖父母

内容：知識・関心・実態

方法：聞き取り調査



研究方法② アンケート調査

対象:埼玉大学学生

内容:知識・関心度・不安・情報源

方法:選択式+自由記述



研究方法③ インタビュー調査

対象：埼玉年金委員会

内容：若者との接点・広報活動の課題

方法：半構造型インタビュー



研究方法① 祖父母・父母世代への 聞き取り調査

対象：ゼミ生の父母・祖父母

内容：知識・関心・実態

方法：聞き取り調査



アンケート内容

祖父母世代

- 祖父母世代

- ①年金制度に対するイメージはどのようなものですか。
- ②年金の仕組みをどのくらい理解していると思いますか。
- ③どの種類の年金に加入していましたか。(厚生年金？国民保険？)保険料はどのくらい納めていましたか。
- ④老後の備えとして、年金以外に準備してきたことはありますか。(預貯金・民間保険など)
- ⑤老齢年金は何歳から貰い始めましたか。



アンケート内容 祖父母世代

- ⑤老齢年金は何歳から貰い始めましたか。
- ⑥年金だけで生活できていますか。他に頼っている収入はありますか。
- ⑦年金額に満足していますか。足りないと感じることはありますか。
- ⑧若い世代にも年金は必要だと思いますか。その理由はなんですか。



アンケート内容

父母世代

- ①年金制度に対するイメージはどのようなものですか。
- ②年金の仕組みをどのくらい理解していると思いますか。
- ③どの種類の年金に加入していますか(厚生年金? 国民年金?)保険料はどのくらい納めていましたか。



アンケート内容

父母世代

- ④老後への備えとして、年金以外に準備していることはありますか。(預貯金・民間保険など)

- ⑤若い世代にも年金は必要だと思いますか。その理由は何ですか。



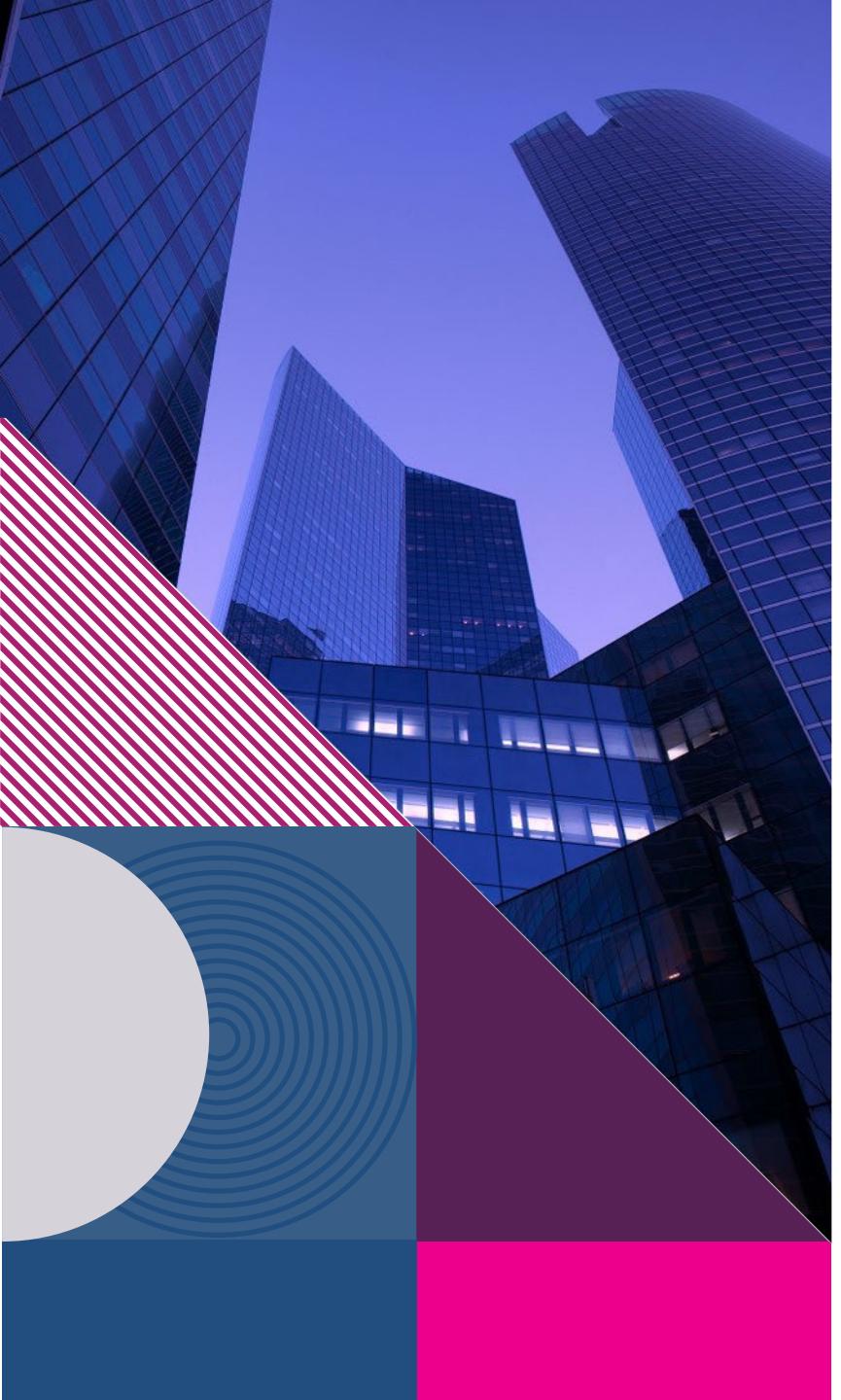
結果から

1.年金制度へのイメージは？

祖父母世代は、年金制度を「みんなが使っているから使うもの」として受動的に捉えており、制度への信頼や 疑問を持つことなく受給している傾向が見られた。一方、親世代は「もらえないかもしれない」「負担が重い」といった不安や不満を抱えており、制度の持続可能性に対する懸念が強い。特に、制度の構造的な問題（少子高齢化による支え手の減少）を意識している回答が多く見られた。

2.制度理解度

祖父母世代は「全く理解していない」「忙しくてわからなかった」といった回答が多く、制度の仕組みについての 理解は浅い。一方、親世代は「半分程度理解している」「資格試験で学んだが忘れてしまった」など、部分的 な理解にとどまっており、制度の複雑さや情報の断片化が理解の障壁となっていることが示唆される。



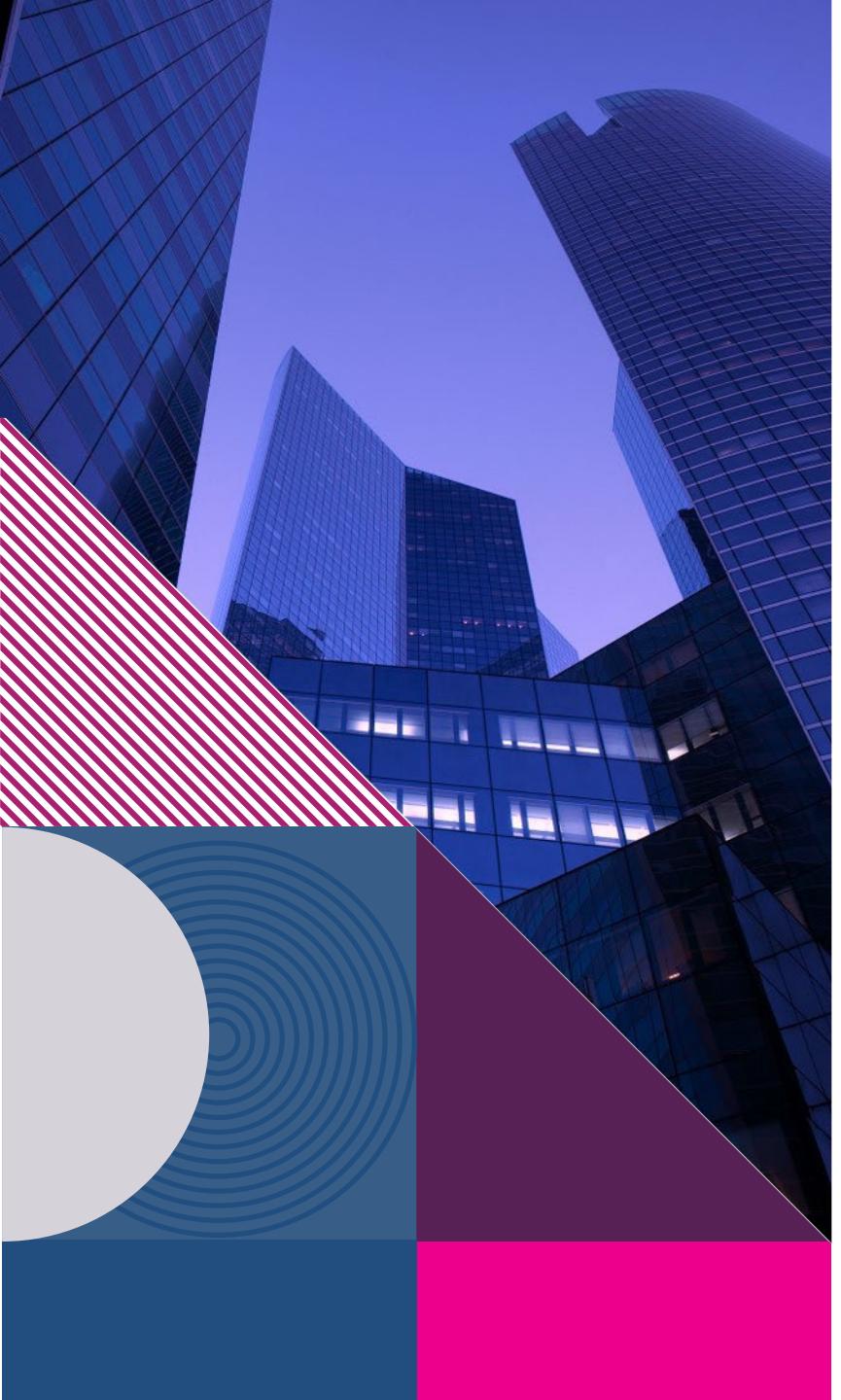
結果から

3. 加入制度と保険料

祖父母世代は主に国民年金に加入しており、保険料は月2500円~12800円と比較的低額であった。一方、親世代は厚生年金に加え、企業型確定拠出年金や財形年金、民間保険など多層的な制度に加入しており、月額の積立額も高額である。これは、制度の多様化と将来への不安に対応するための自助努力の表れと考えられる。

4. 老後の備え

両世代とも貯金を重視しているが、祖父母世代は「年金だけでは不安」「ボーナスは全額貯金」といった回答が多く、制度への依存度が高い。一方、親世代は「年金がもらえない可能性を考慮して貯金」「民間保険も活用」といった戦略的な備えを行っており、制度の限界を前提とした資産形成が特徴的である。



結果から

5.受給開始年齢と生活状況

祖父母世代は65~67歳から年金を受給しており、「年金だけでは生活できない」「貯金を取り崩している」といった回答が多い。親世代はまだ受給前であるが、「もらえないかもしれない」という前提で備えており、制度への信頼は低い。

6.若年世代への制度の必要性

両世代とも「若い世代にも年金は必要」との認識を持っているが、親世代は「制度が続くなら必要」「新しい制度に移行すべき」といった条件付きの意見が多く、現行制度への不満と改革への期待が見られる。



アンケート結果 家族とどのような話をしたか

- ・大学生のうちから年金をきちんと払うべきか、学生納付特例を活用して学生の間は免除を受けるべきかについて話した。
- ・私は社会人になるまでの年金支払いについて、両親に肩代わりしてもらっているので、それについての話を定期的にしています。
- ・今の若年層は働いていたとしても、もらえる年金額が相当少ないことを考えると、今のうちから年金積立(NISAやiDeCo)を始めておくべきだという話をした。
- ・将来、納めた分の年金がちゃんと給付されるのか不安だという話を両親とした。
- ・母親と、ぼくたちの世代では一人当たりの支える高齢者的人数の負担が大きくなるから大変だねという話をしました。
- ・私は社会人になるまでの年金支払いについて、両親に肩代わりしてもらっているので、それについての話を定期的にしています。
- ・大学生のうちから年金をきちんと払うべきか、学生納付特例を活用して学生の間は免除を受けるべきかについて話した。



研究方法② アンケート調査

対象:埼玉大学学生

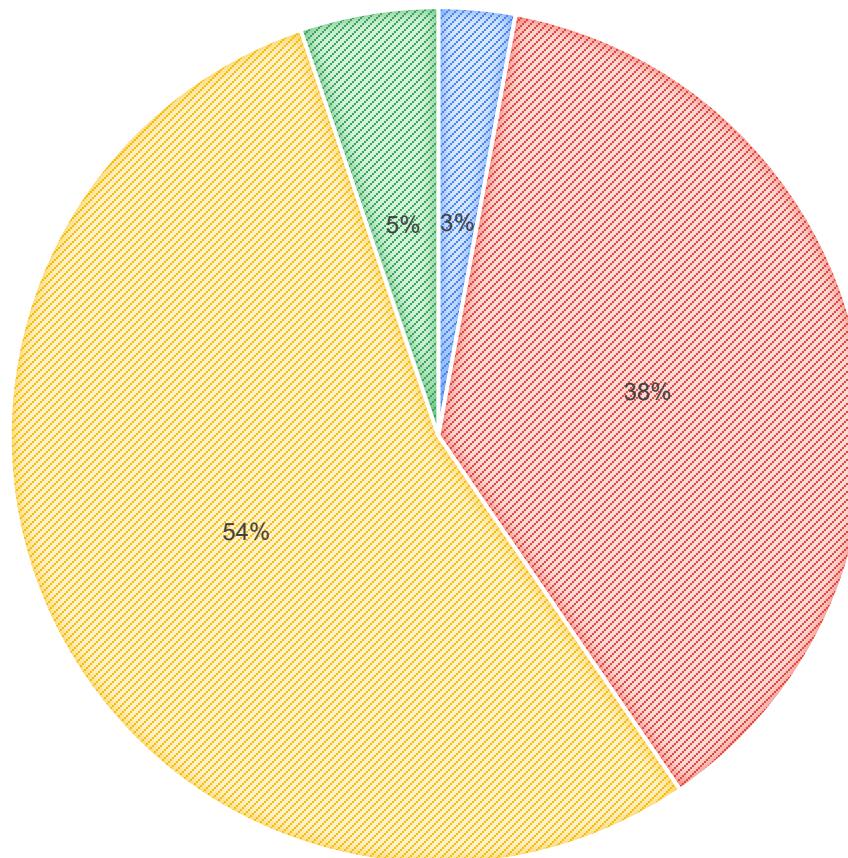
内容:知識・関心度・不安・情報源

方法:選択式+自由記述

アンケート結果 理解度

公的年金制度についてどの程度理解していると思いますか

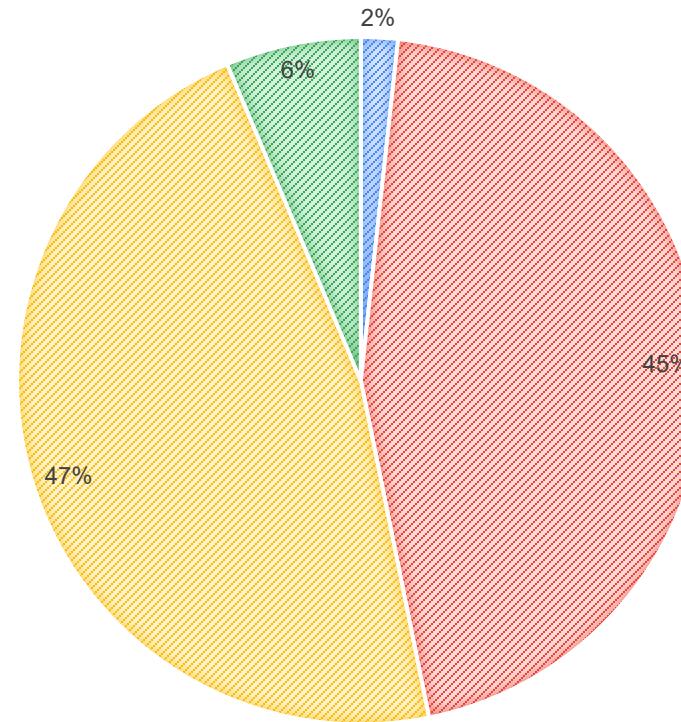
■ 理解している ■ やや理解している ■ あまり理解していない ■ 理解していない



アンケート結果

年金について情報に接する機会はありますか

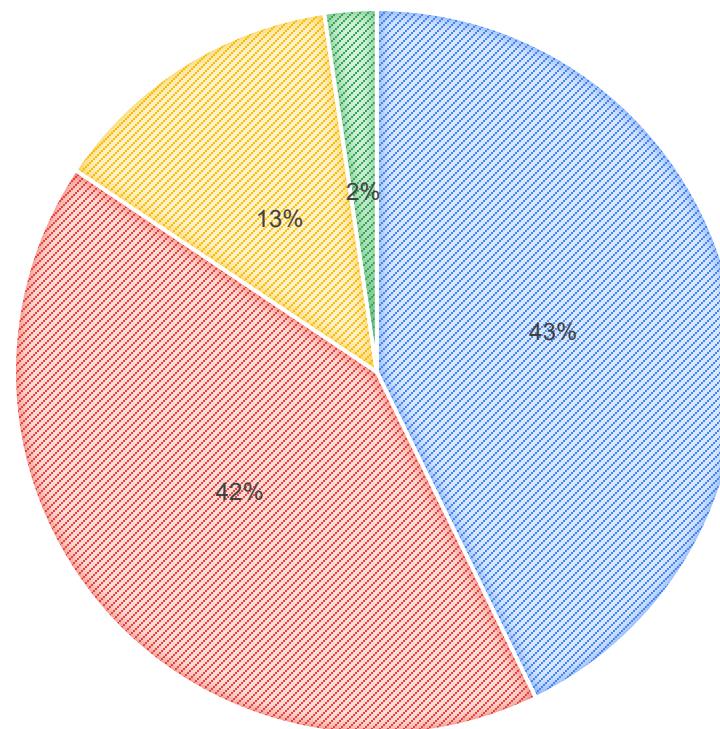
■よくある ■たまにある ■あまりない ■ない



アンケート結果 不安感

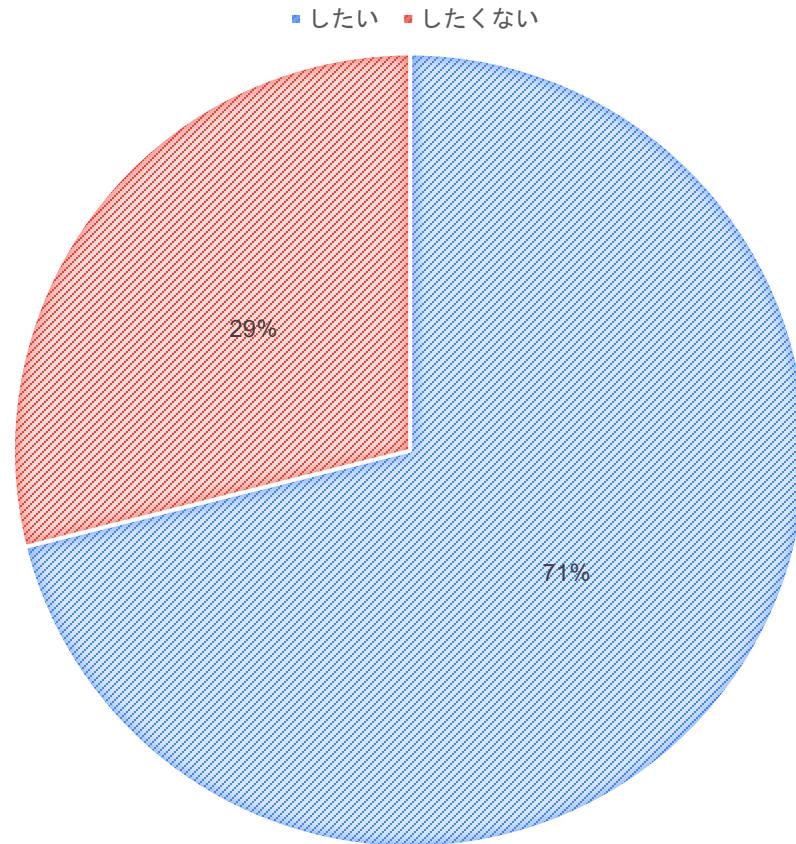
将来、自分が年金を受け取れるかどうか不安に感じますか

■ 不安に感じる ■ やや不安に感じる ■ あまり不安に感じない ■ 不安に感じない

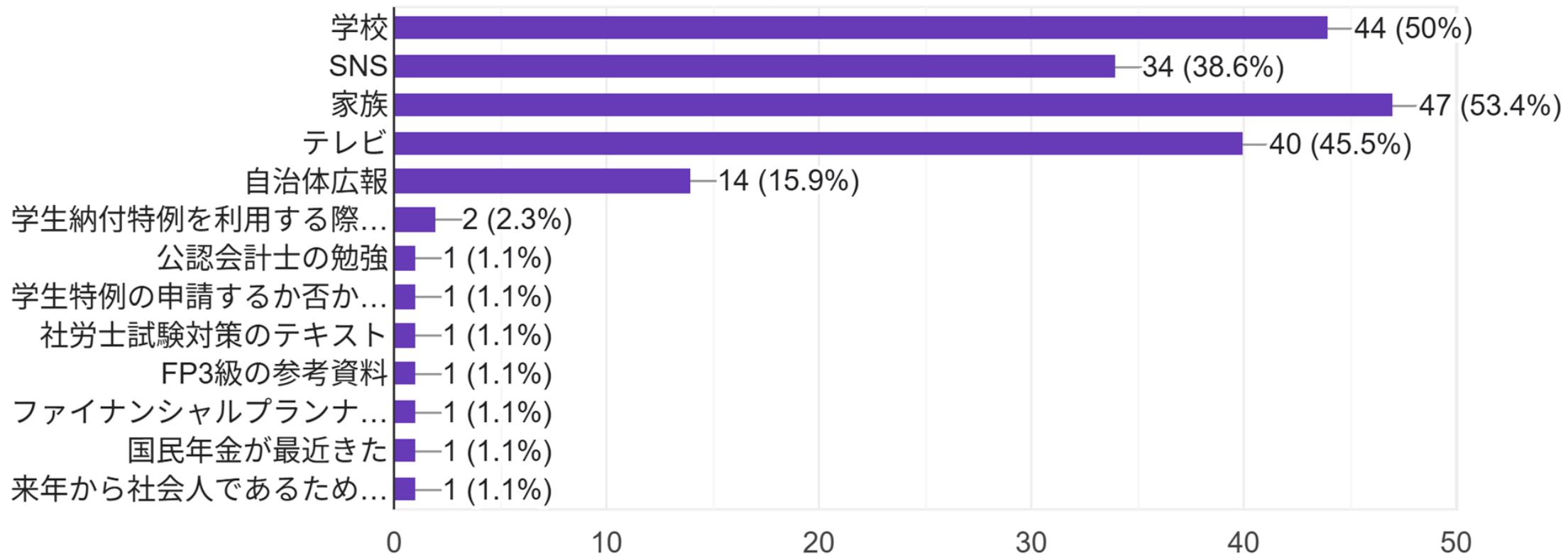


アンケート結果 学習意欲

大学で年金制度を学ぶ講義やイベントがあれば参加
したいですか



【年金についての情報に接する機会が「ある」または「たまにある」と答えた方にお聞きします】
年金制度についての情報に接したのはどのような情報源ですか（複数回答可）
88 件の回答



アンケート結果 自由記述

- ・高齢者人口は増え続ける一方で、若い世代は減少しています。その中で年金のために引かれる金額が高くなり、労働意欲が低下してしまうと感じます。
- ・年金制度は必要な制度だと考えているが、今の仕組みが適切なのか、今後維持できるのかに不安がある。
- ・20歳になって、いきなり書類がきてよくわからないこともあるため、高校生などのうちから、年金についてもっと知っておくべきだと思う。

アンケート結果から

- ・学習意欲はあるものの行動に移している人が少ない、自分の知識に自信を持てていない人が多い。
- ・不安感を持っている人が八割以上いる。
- ・年金を身近に感じられる場所は学校と家族が最も多い。



研究方法③ インタビュー調査

対象：埼玉年金委員会

内容：若者との接点・広報活動の課題

方法：半構造型インタビュー

インタビュー結果①

委員会の活動量は、委員数に比例することから委員活動の充実を図るために、それに見合った委員を増員することが必要である。資料によると、平成26年度の143人をピークに減少をつづけており、現在は102人。さらに、委員数だけではなく実際に活動に参加してくれる人を求めている。また、年金委員会を全国展開することで、より一層の信頼確保につながるのではないかと考えている。

インタビュー結果②

創意工夫を凝らした年金広報の実施

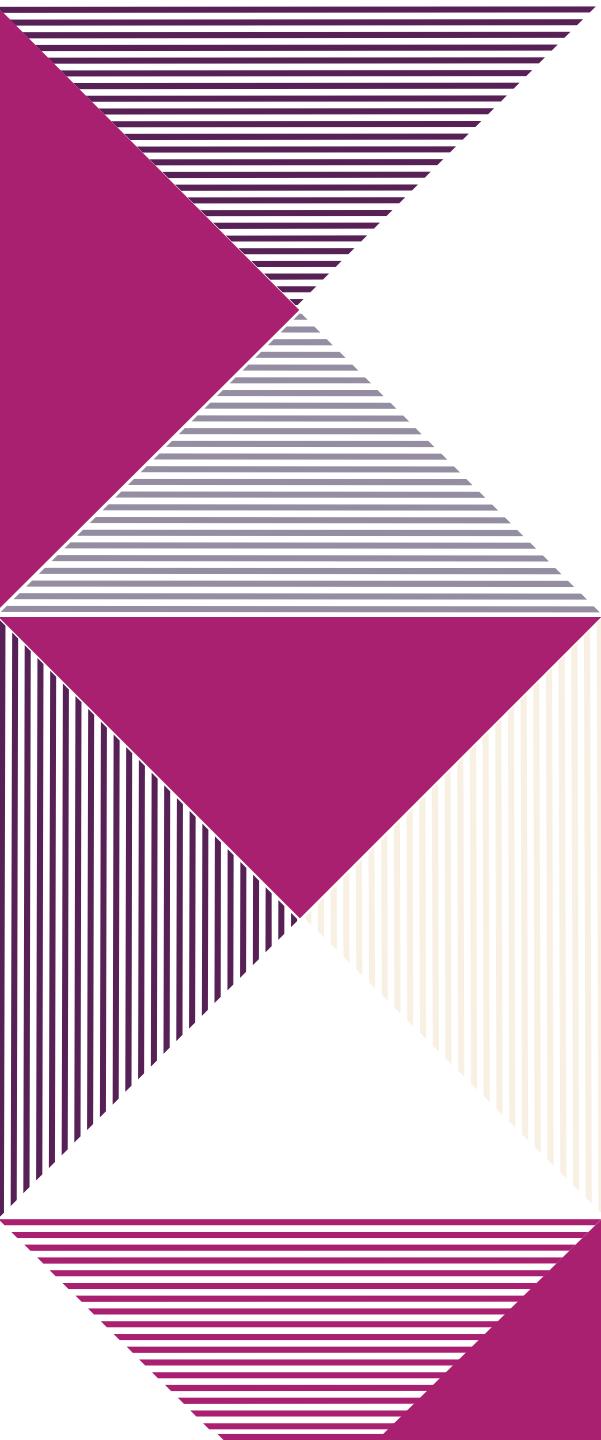
年金の広報の実施に当たっては、特に現役世代に直接届くようにする必要がある。そのために年金の根幹に特化したアプローチにより将来への不安を払拭し、信頼と安心を届ける。

インタビュー結果

世代間での認識の差

高齢者世代の意見では、受給額を増やしてほしいと年金委員が相談されることがある。しかし、今の現役世代の負担を考えると難しい。世代間のギャップを感じる。

中高生や大学生に向けたイベントを実施。



問題点の総括

- 理解不足 + 不安全感
- 情報接触の少なさ
- 世代間認識のギャップ[。]
- 家族間での情報伝達の不足



問題の解決に向けて

対策1 教育の再設計

- ・高校・大学での授業に年金制度を組み込む
- ・ワークショップや事例学習を導入
- ・キャリア教育との接続
- ・単なる知識提供ではなく、生活実感に結びつける教育が必要

対策2 初期接触段階での支援

- 20歳通知に合わせた事前説明会の実施
- 学生納付特例のわかりやすいガイド作成
- 手続きの簡素化による心理的ハードルの軽減
- 制度との最初の接触を安心できるものにする

対策3 年金委員会との連携

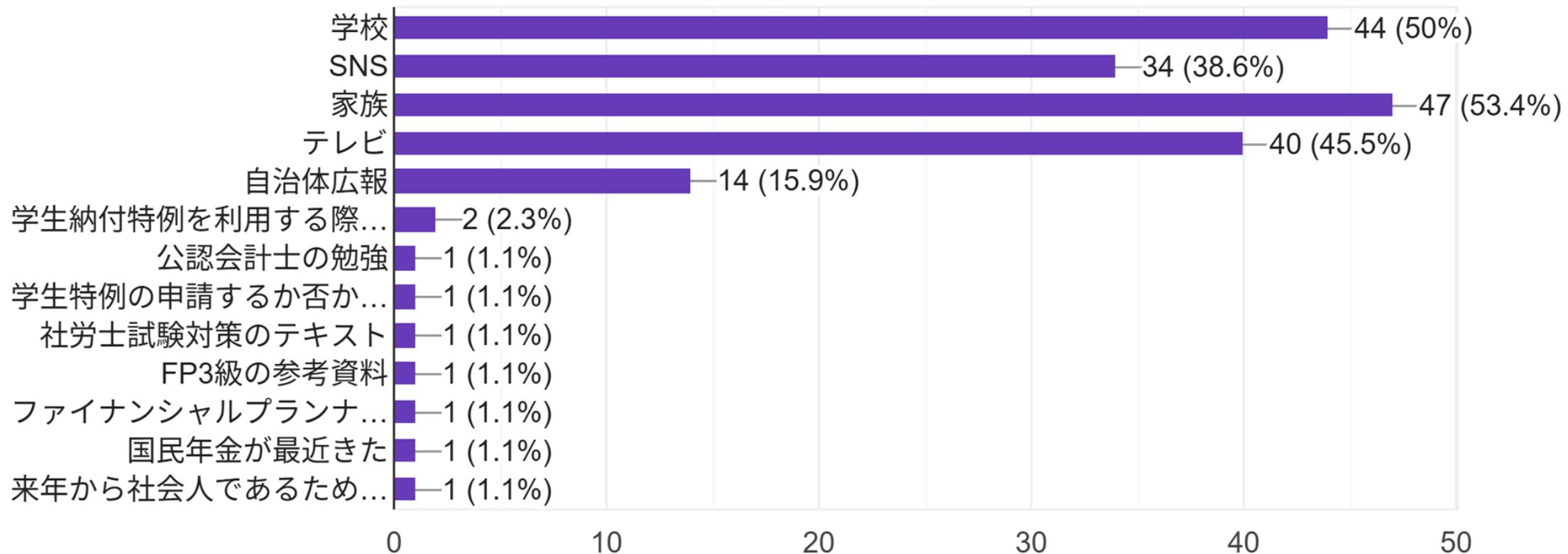
- 若者向けセミナーや相談会の定期開催
- 教育機関との協働プログラムの実施
- 委員活動の人材確保・支援強化
- 制度の担い手と教育機関が協力し、情報を届けやすくする

対策4 家族と年金の話をしよう

学生に向けたアンケートの結果からもわかるようにSNSや学校での教育も対策の一つではあるが、身近な両親や祖父母から知識を得ることがより重要。

家庭内で知識の共有ができれば、世代間コミュニケーションにもなり、好循環が生まれるのではないだろうか。

【年金についての情報に接する機会が「ある」または「たまにある」と答えた方にお聞きします】
年金制度についての情報に接したのはどのような情報源ですか（複数回答可）
88 件の回答



対策4 家族と年金の話をしよう

今後の課題

- ・政策として家族間で年金に関するコミュニケーションを促進することはできるのだろうか。
- ・親世代、祖父母世代にも正しい知識があるのか、学生だけではなくすべての人に教育が必要ではないのか。

対策まとめ

- 若者向け：将来像や納付の意味を伝える
- 高齢者向け：制度の持続性・公平性を伝える
- 世代ごとの情報ニーズに応じた広報設計
- 世代間のコミュニケーションが重要になる



ありがとうございました